

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	砂防課長 田中 忠夫	電話番号	0852-22-5205
----------	------------	------	--------------

事務事業の名称	土砂災害情報通報事業
目的	(1) 対象 土砂災害危険箇所に住む住民及び市町村 (2) 意図 土砂災害に関する情報の提供により警戒・避難体制を整備し、土砂災害から住民の生命を守る
事業概要	○市町村が避難勧告を発令する際の判断材料や住民の自主避難に資する「土砂災害警戒情報」や補足情報である「土砂災害危険度情報」、「土砂災害（特別）警戒区域」を提供するための情報基盤を整備する。 ○県民の土砂災害防止の意識向上のため、防災学習会や研修会を開催する。

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	土砂災害特別警戒区域の調査結果公表済箇所数	目標値		15,000.0	17,000.0	19,000.0	21,000.0	箇所
	式・定義	公表済箇所数	実績値	14,567.0					
			達成率	-	-	-	-	-	
2	指標名	土砂災害防止学習会・研修会の受講者・参加者の延べ人数（累計）	目標値		20,000.0	21,000.0	22,000.0	23,000.0	人
	式・定義	参加延べ人数	実績値	19,255.0					
			達成率	-	-	-	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	26,900	27,589
うち一般財源 (千円)	26,900	27,589

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

土砂災害警戒情報、土砂災害危険度情報については、市町村や関係機関への伝達経路を確立するとともに、インターネットやメール配信により県民に提供する環境づくりは完了している。しかし、平成27年度の県政世論調査の結果では、6割の県民が避難が必要となる土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域を知らないと回答している。土砂災害防止のための啓発活動として、土砂災害防止学習会のほか、啓発チラシの県下全戸配布、民放テレビ3局でのスポットCM、ケーブルテレビでの啓発ビデオ放映などの活動を展開中。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・土砂災害特別警戒区域の調査結果を公表した8市町のうち、2市が特別警戒区域を記載したハザードマップに更新し住民配布した。ハザードマップは周知媒体としては有効であることが県政世論調査で確認されている。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
  - ・防災情報を提供しても、情報を活用する側の県民の6割が、土砂災害のおそれのある区域「土砂災害警戒区域」や身体等に著しい危害が生じるおそれのある区域「土砂災害特別警戒区域」について知らないと回答しており、避難行動に結びつかない。
- ②困っている状況が発生している「原因」
  - ・ハザードマップの住民配布から年数が経過し、また、平成25年以降、大きな災害も発生していないことも重なり、県民の土砂災害に対する防災意識が希薄化。
  - ・土砂災害特別警戒区域の指定が進まず、当事者意識が低い。
- ③原因を解消するための「課題」
  - ・県民の防災意識の向上のためには、継続的な啓発活動の展開が不可欠。
  - ・指定が難航しているため、土砂災害特別警戒区域を記載したハザードマップの更新が遅れている。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・土砂災害警戒情報、危険度情報、危険箇所情報などの防災情報の確実な県民への提供環境を維持する。  
 ・防災学習会やインターネット、チラシ、テレビ等を媒体とした広報、啓発活動を引き続き展開する。  
 ・土砂災害特別警戒区域の調査結果をインターネットで公表することにより、県民に危険な箇所を周知するとともに、指定が進まない市町村の役目として住民周知のための特別警戒区域の指定予定箇所を記載したハザードマップ更新を指導する。

9. 追加評価（任意記載）

課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。  
 ・上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。